

遠隔医療基盤分科会

Infrastructure of Telemedicine SIG

分科会長 近藤 博史

協立記念病院、日本遠隔医療協会

1. 分科会の目的

遠隔医療の基盤になる技術と規則を検討し、新たな技術による規則の見直し提言や、新たな規則からの技術の利用の提言を検討する。また、新たな技術、新たな規則の効果的、効率的な利用の促進のための広報を行なう。特に医療DXに向けて、クラウド、人工知能も含めて検討する。また、近年の状況から特にセキュリティ、特にサイバーセキュリティに注力して活動する。

2. 令和5（2023）年度活動実績と成果

- ・厚生労働省のサイバーセキュリティに関する調査研究を行い、成果発表と情報収集を目的に日本遠隔医療学会学術大会、医療情報学連合大会、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンスでシンポジウムを開催した。参加医療機関の一部にも個別の説明を行った。近藤は日本医学放射線学会の遠隔画像診断ガイドライン更新案作成に参加しサイバーセキュリティ関連部分を担当した。第21回一般社団法人遠隔画像診断サービス連合会(ATS)セミナー、日本透析医会の教育講演、大阪大学学友会の基調講演、東京都立病院機構の診療放射線技師研修会で講演し、これらの内容は関連の出版物等にて掲載されている。
- ・医療DX関連の実績として、医学のあゆみの遠隔医療、オンライン診療の現在と未来、臨床画像の遠隔画像診断の最新動向と未来予測の特集の編集と論文発表を行なった。

3. 令和6（2024）年度活動計画

- ・サイバーセキュリティに関しては、厚労省調査研究の流れから CISSMED コアメンバーとして近藤博史と長谷川高志が参加し支援する。また、蓄積した資料を用いて学会の教育活動を行う。
- ・医療DX関係の技術基盤の最新動向の議論を行う。
- ・サイバーセキュリティ、技術基盤において海外と相違する日本の法的基盤についても議論する。